



Bブロック全作品と講評

白

www.columnland.net

真っ白なキャンバスに

自分の思うままに

自分の思い描いた未来を。

白は始まりの色

「人生」

僕ら5人はある屋敷の地下室にいる。そして今、僕らの目の前には女性の死体がある。年は20歳そこそこという感じで死体の顔は苦痛で歪んでいる。

女性のすぐそばには拳銃が置いてある。女性が左手でハンカチらしきものを腹部にあてていることと合わせると凶器および死因は明らかだ。

腹部付近の床には大きな血だまりができていてハンカチは余すところなく真っ赤に染まっている。最も、拳銃やハンカチよりも僕らの目を引いたものは女性の右手の先である。女性は右手に付いた血で「男」という文字を僕らに残していたのだ。

「もう嫌だ、帰りたい・・・」死体を見つけてから絶句していたA男はようやく口を開いた。

「帰るってどうやって？さっき散々この屋敷から出る方法を探したけど結局みつからなかったじゃないか。」

唯一探してなかった地下室からも死体しかでてこない。俺らは自力でここからでるなんて不可能なのさ。」諦めたようにB男は言うど近くにある椅子に腰かけた。

「帰れないだけならまだいいわよ。」C子はうつむきながら肩を震わせる。

「確かに私たち5人は面識がないしお互いがどういう人間かを知らないわ。でも目が覚めたらこんな屋敷に閉じ込められていたっていう境遇に置かれた仲間でもあったから・・・それなのに・・・」C子の目には涙がたまっていた。

先ほど弱気発言をしたA男はどうにもならないことと言ってみんなをより不安にさせてしまったと反省したのかC子を励まそうと肩に手をかけようとする。

「さわるな殺人犯！」C子はA男の手を払うとキッとA男をにらんだ。

「あの女性は男って書いたのよ！この屋敷にいる

のは私たちだけなんだから犯人はあなたたち4人のうちの誰かじゃない！」

「何だと！あの男って文字がなんだっていうんだ！あんなの犯人が書いた言葉かもしれないじゃないか」

「それって私を犯人って言ってる」

「もうやめてくれ！」D男はA男とC子の会話に割ってはいった。

「せめて彼女を静かに眠らせてあげてくれ・・・かわいそうに女性だというのにこのような顔に・・・白いハンカチもこんなに赤く染まってしまってる・・・」D男は死体のそばにいくと見開いていた目を静かに閉じさせる。

ここまで4人の会話を黙って聞いていた僕はすぐそばに落ちている拳銃をゆつくりした動きで拾った。僕の行動を凝視する4人をよそに僕は口をひらく。

「こんな閉じ込められた屋敷の中で殺人犯と一緒にいるなんて僕は絶対に嫌なんだ。だから犯人を見つけ次第殺すということはどうだろう？」僕はみんなの顔を見渡す。戸惑っているものの異論はないようだ。

「よかった！」ぼくはこの屋敷ではじめての笑顔をみせるとためらいなく犯人の頭めがけて引き金をひいた。

(注)血だまり・血が大量にあること。絶句・言葉がでないこと。面識・あったことがあること。凝視・よく見ること。異論・反対意見。引き金・引くと拳銃をうてるもの。凶器・殺しに使われた道具。死因・死んだ原因。よそに・きになしないで。余すところなく・一つ残らず。腹部・おなかのこと。

「犯人は・・・」

二〇二二年十二月三十一日、

次期「キングオブタイガー」を決めるべく各国から優秀なタイガーたちが集まった。現キングであるホワイトタイガー九九世はこれらのタイガーの中から一人自分の後継者にふさわしい者を選び出し体を白に染め上げることで王位を継承する。

選ばれた者は二〇二二年一月一日から新たにホワイトタイガー一〇〇世を名乗りこの国を統治するのだ。

王を目の当たりにした皆々はその毛並とたたずまいに感嘆の声をあげている。そして、次は自分が王だと意気込む者もいれば緊張のあまりうずくまるもの、中には緊張をほぐそうと友達とじゃれあっている者たちもいる。

白「皆の者、今日は国のためによく集まってくれた。早速だが私の後継者を決めようぞ。」
ついに話し合いが始まった。

赤「俺に任せろーリーダーシップと責任感なら誰にも負けないぜー」

青「王はやはり優雅であるべき。私の方が王にふさわしい。」

黄「俺だって負けてねえ！体力とパワーで俺に勝るやつはいねえだろー」

赤「お前はもはや『ノーマルタイガー』だろ、個性のないやつはすっこんでろー」

桃「待つて、次期王様は私ピンクが♡」

青「お前メスじゃないか…、王はオスだろ普通…」

続々と候補者が名乗りあげ、城内も白熱していく。

紫「赤と青の雑種である僕が一番でしょー」

茶「いや染め直して一段とかつよかった俺こそ王にー」

「俺がなるー」

「いやボクだー」

話がまとまらない中一人の声があがる。

？「お前たち、この俺を忘れてるぜ…」

赤「お前は誰だー」

黒「ダークホース、ブラック様だー」

虹「「お前は無理だ、海老だから。」」

黒「え、な、何…」

いいじゃねえか、「タイガー」なんだからー！ー！ー！

結局議論の末にレッドタイガーが王位を継承することになった。

牛海老ことブラックタイガーが認められる日は来るのだろうか…。

※ダークホース…能力・手腕はつきりしないが、予想外の活躍をしそうな候補者。

『白を夢見た黒』

白い病室にひとり君はいる。
白い髪をなびかせながら、
「来てくれたんだ」
なんて言う。

白い血病とひとり君は闘う。
白い頬をほんのり染めて、
「待ってたよ」
なんて微笑む。

白いベールをひとつ君は纏う。
白いベッドに染みをつくって、
「ありがとう」
なんて泣き笑う。

白い手紙をひとつ君は書く。
白い手先をふるわせて、
「だいすきだよ」
なんて紡ぐ。

全ての色をすいこむ君は
虹の軌跡も引き寄せて
君に白羽の矢が刺さる。
君の心臓に刺さってしまう

白い部屋でひとり君は眠る。
白い布で顔を隠して、

「
」
白雪姫は目を開けない。

「アルビノと白血病の少女」

*白雪姫：今回はグリム童話でなくディズニーの白雪姫。姫の美貌を憎んだ王妃。王妃の策で毒りんごを食べ死んだ姫は、王子の口づけで目を覚ます。もしも僕が王子なら、彼女は目を覚ましたのだろうか。

青い空、白い雲

ふと見上げればそこにあるもの
晴れていることの象徴

白いご飯、好きなおかず

家でのんびり食べたり
友達とおしゃべりしながら食べたり

ノートの真っ白なページ

これから自由に書き込める
勉強だって頑張る

白衣を着た君

実験の授業のときにだけ会える
告白なんてできないけれど
話せるだけでいいんだ

日常にある当たり前のような存在や光景だけど
これがきつと私のしあわせ

「好きなもの」

その少女は、無垢という言葉だけでは言い表せないくらい白かった――

少し前、私は肺炎で入院することになった。しばらくはベッドの上から動けないほどだったが、今では暇で暇で仕方がなかった。最近では病院の中を探検するのが日課となっていた。

その日屋上に行くと、沢山の真っ白いシーツの中に、車椅子に乗った少女がいた。

彼女はこの世界の何もかもを諦めたような目をしていた。淡い色のパジャマにストンと落とした長い髪。何より目を引くのは、パジャマから覗く真っ白な肌だった。少女は言った。

わたしね、もうすぐしぬの。このセカイの、なにもしらずにしぬの。

「あー、それは多分七九九号室のゆりちゃんだね。今度会いに行ってみるといいよ。」

さっそく看護師に聞いてみたら、ご親切に教えてくれた。七階か……。七階は特に症状の重い患者がいる所だ。病院を普段探索している私でも、七階だけはあまり行かないようにしていた。しかしあの子がいると聞いては黙っていられない。あの真っ白な肌を、あの真っ黒な目を無視せずにはいられなかった。

七九九号室の表札には『夏目 ゆり』と書かれていた。扉をノックすると、か細い声で「どうぞ……」と言うのが聞こえた。部屋に入ると、そこには真っ白な空間が広がっていた。

「あれ、あなたはこの前屋上にいた……」

「はじめまして、私の名前は江崎里香。あなたと友達になりたくて来たの。」

友達になるなんて考えてもなかったが、彼女の目を見たらそう言わずにはいられなかった。

「とも、だち……?」

「そう、友達。今日から毎日あなたに会いにくるわ。」

それから私は本当に毎日ゆりに話しかけにいった。彼女は何も反応を示さなかったが、私のことを追い出しはしなかった。私はひたすらに独白を続けた。

そこから一ヶ月が経ち、私が退院する時が来た。退院することになった、でもまたお見舞いに来ると言うと、ゆりが今まででは考えられないような声で叫んだ。

「もう我慢出来ない。あなたのことなんて大嫌い。あなたは私が聞きたくもないようなことをひたすら話してくる。外のセカイの話ばかり。どうしてくれるの! あなたのせいで、このセカイのことを好きになっちゃったじゃない! 私はこのまま死ぬしかないのに! このままじゃ死ねない。このあと病気がどうなってもいい、私を外に連れ出してよ!」

良かった……。私の声は届いていたのだ。驚いたが、外に興味を持ってきてそれ以上に嬉しかった。しかしこれで良かったのだろうか。ゆりにとってはセカイを知らないで生きてきた方が幸せだったのではないだろうか。いや、そんなことはない。あの真っ白な彼女が色に満ちたこのセカイを知らずに死ぬのはあまりに悲しいことだ。

私たちは、病院の外への一步を踏み出した。

『いろとりどりのセカイに残される二つのあしあと』

「白」の再分析

僕は大学へ行くため道を歩いていた。お宅の中に来たばかりの子が真っ白の牛乳を飲んでいた。

クリニックの中お医者さんが白衣を着て患者さんを診ていた。

朝駅はすぐく込んでいた。電車のドアが閉まりづらくなり、白い手袋をはめた駅員さんが走ってきて、乗客さんの中におして、ドアを閉めた。

教室で本を開けたところ、当たり前なことだけど、紙が白かった。

夜家へ帰っていたとき頭が白髪になったおじいさんが庭造りをしていた。

「当たり前なことだけど、何で今日白を目に入ったの？」と僕が考えていた。白が清潔の意味するか？それとも質素の意味するか？あるいはその両方もあるか？もうちよつと広く考えると人生の前半の子の真っ白の牛乳から後半のおじいさんの白髪まで人生のどんな段階も白と関係があるのだよね。つまり、白は人生をシンボライズしているのではないか？

白紙の気持ちを考えたことがありますか？

二

〇一四年某日、私はある白紙H氏の元を訪れた。彼は少々皺が出来、うつろな折り目をしていた。「やめて下さい。私は純白でありたい。」Hは訴える。彼は白くありたかった。何にも汚されず、完璧で純粋な自分でありたかった。「紙にも紙のプライドというモノがある。そうでしょう？」彼の折り目が増えた。

H氏はひとつの解決策を見つけた。「紙飛行機」である。純白を保ったまま意味を持った造形を成し、子どもたちに喜びの眼差しを受ける、最高の成り行きだった。これしかない、と彼は思った。「真っ黒な未来に、一筋の光が見えた気がしました。紙飛行機こそ私のアイデンティティだと、紙様と言ってくれている気がしました。」

H氏は希望を持っていた。紙飛行機に折ってくれる人が現れる事を願っていた。彼はただ待つしかなかった。救世主の登場を待つしかなかった。

私は「こんな皺だらけの紙は使い物にならない」と思ってくしゃくしゃにまるめてゴミ箱に捨てた。

微睡みを拭った光に起こされて

窓越しに空を見る

浮かぶ太陽に心踊らされ

伸びをしつつ立ち上がる

慣れた床に支えられ

力の入らない足で椅子につく

パンとスーぷに元気づけられ

冴えた頭で思考する

今日をどんな色に染めようか

或るものは私のことをすべてを混ぜ合わせた
色といい、

或るものは私のことを何も混ぜてない色と
いう。

世は戦国時代。黒軍と白軍が領土を奪い合う熾烈な争いを繰り返している。

序盤、黒軍の十万の兵に対して白軍の兵は二、三。圧倒的な兵力差になすすべなく、劣勢だった白軍。さらに見つかりと排除されることもあり、敗北は時間の問題であった。

しかし白軍が脅威の粘りをみせ、この闘いは何十年も続いた。するとそんな白軍の辛抱強さに惹かれて、黒軍から寝返る者が続出し、さらに長期戦に耐えきれない兵もいて、黒軍の数は減り続けた。

ようやく勢いにのり始めた白軍。このまま白軍が押しきるのではないか。誰もがそう思い始めたとき、黒軍はある最終兵器を使用した。

白髪染め

「白髪原の戦い」

びっしり書かれた予定表
白かった頭を思い出す

コンテスト結果

[Aの部]

コ ラ ム 番 号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	おいしい乳牛	12 pt	4 位	0 sp
		ボクの飲み物だよ、返して！ なのか、ボクのお母さん、返して！ なのか。どちらとも読めるシュールでインパクト大な今週の表紙です。そのインパクトで圧勝のイチオシフリーズ大賞でした、おめでとう!! イチオシフリーズ：「おいしい乳牛」×3 「かえして！」×4		
A02	自由 ()	3 pt	9 位	0 sp
		正統派、入ります。「限られた自由」というキーワードでシャープに斬り込んで明晰。ヒトの心と体の関係など、大きな問いにチャレンジングな一投を投じていただきました。みんな、正統派書こう！ 競争率低めです（たぶん）。イチオシフリーズ：「カンバス」		
A03	問 人はご飯を無限に食せることを示せ	8 pt	7 位	3 sp
		無限を $k+1$ と定義したら、まあ、こうなるわな。おなじみのトリックを白米ヴァージョンに仕立ててお届けいただきました。おなか壊さないように。さすがこのネタ、東工大生に受けて最多特別賞です。おめでとう！ 特別賞：正解で賞（証明が正しいから。）東工大で賞（Show)(数学つかっちゃったNE!) 2015年の入試はこれで賞（東工大生らしさが存分に出ている。）		
A04	白紙じゃない白紙	0 pt	11 位	1 sp
		友だち会話の親しみやすさが読みやすい。とりわけ、白紙にこそ価値があるという、長ったらしい言い訳セリフがおもしろかったです。誰が話してるか、もう少し明示すると、より分かりやすかったか。 特別賞：理解しづらい賞（あまり話が理解できないから） イチオシフリーズ：「白紙じゃない白紙」		
A05	春眠	13 pt	2 位	1 sp
		あーあ、やっちゃった。ふわふわと展開したあと、「蒼白」から「春眠」へ。たった4文字で、急降下のラストを説明しきったワザがあざやか。なるほど先輩から後輩へのたいせつなメッセージだったのですね、納得。おめでとうシルバー・メダル！ 特別賞：奥が深いで賞（いろんな解釈ができる。） イチオシフリーズ：「蒼白」×3		

A06	まっ白なシャツ	13 pt	2 位	3 sp
		先週に引き続いての長文書きさんのご登場です。 無垢に別れを告げて世の中に出て行くということ。シャ ツの色という比喻で、さまざまな状況を表現した技法 が、しっかり人生経験にシンクロしていて、ラストもポ ジティブで良い読後感でした。 すてきな賞をいっぱい、そしてシルバー・メダルゲット です、おめでとう!!! 特別賞：ノーベル文学賞（描写がきれい） ラノベ大賞 （主人公の謎のモテ気質） ロマンチックで賞（文章にで てくる女の子がかわいかった。）		
A07	ひきこもりへと続く道	2 pt	10 位	1 sp
		ふう、こうやってまたひとり、非生産人口が増えてしま うのか、目玉焼きおそろべし。 とんとんとんと状況を畳みかけて、ぴしゃっとひきこも リエンド。リズム感のとても良い構成でした。 特別賞：大げさで賞（それくらいでひきこもるな!） イチオシフレーズ：「目玉焼きを叩き潰し」		
A08	オセロ	9 pt	5 位	2 sp
		この時点で端っこが残ってるなんて、大チャンスです ね。ぜひ、逆転して高笑いしてやってくださいまし。 ときにみなさま、「オセロ」のような辞書類にふつうに 載っている単語に、いちいち注は要りません。百万人 コードは、あくまで一部の人にしか分からないウチワネ タを防ぐためのルールです。くわしくはTAさんに。 特別賞：ご愛読ありがとうございました賞（打ち切りっ ぽいから） 負けフラグ賞（『もはやお前たちに勝ち目な どないだろう』明らかな負けフラグです。本当にありが とうございました。） イチオシフレーズ：「俺たちの戦いはこれからだ!」		
A09	シラスから小エビ 発見したとき	14 pt	1 位	0 sp
		白いふわふわ、という表現が実感こもってました。 あるある体験ですね。それを嬉しいととらえる感性がす てきです。フレーズもさりげなくて共感しやすい。 シンプルに攻めて、接戦を制してのゴールド・メダルに 輝きました。おめでとう!!!		
A10	キャンバス	7 pt	8 位	2 sp
		人生のキャンバスは若者の特権ではない。おじいさん だって、やっぱり真っ白で開拓者でありたい。 そんなメッセージと受け取りました。定番思考にはまら ないユニークさが◎。 特別賞：わかんなかった賞（よくわかんなかった） ハラ 賞～（すばらしい!!） イチオシフレーズ：「真っ白でよかったよ。描きたいこ とが多すぎるから」		
A11	白雪姫	0 pt	11 位	2 sp
		白雪姫ロボットヴァージョン。 とても巧みに嫉妬心の醸成が描かれていて、ああロボッ トヴァージョンになっても、人の心の醜さが物語の原動 力なんだなと納得しつつ読みました。続きが読みたくな るナイス改変、グッジョブです。 特別賞：話がふくらむで賞（続きを考えると話がふくら		

		む) ファンタジー賞 (白雪姫だから)
A12	白色	9 pt5 位0 sp 四季おりおりの、いとしい人の憂いを、ただ見つめるしかない無力な私。 とてもきれいで整ったフレーズたちに魅了される今週の裏表紙でした。

[Bの部]

コ ラ ム 番 号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	人生	5 pt6 位0 sp 教科書体のフォントが、かっちりとしたスタンスにマッチして、まさに「人生」。 始まり気分満開の今週の表紙です。 イチオシフレーズ：「白は始まりの色」		
B02	犯人は・・・	10 pt3 位4 sp コンパクトサイズのみステリー、入ります。いきなり犯人撃ち殺してだいじょうぶ？ まあスピード展開ならしかたないか。犯人はハンカチが白だと知っていたD男ですかね？。すんと種明かしが欲しかった。 みんなで犯人推理までしてくれて、おめでとう最多特別賞&ブロンズ・メダル!! ときにみなさま、「血だまり」のような (以下、A8と同文) 辞書類にふつうに載っている単語に、いちいち注は要りません。百万人コードは、あくまで一部の人にしか分からないウチワネタを防ぐためのルールです。くわしくはTAさんに。 特別賞：ミステリー賞 (D男!!) 長文賞 (白が実は使われないこと) 展開がよかったで賞 (1つの物語が完成してよかったから) 金曜サスペンス賞 (白が犯人の手がかりになるというのがすごい) イチオシフレーズ：「白いハンカチ」「もう嫌だ、帰りたい」		
B03	白を夢見た黒	3 pt7 位0 sp ブラックタイガー→「海老だから」に大爆笑です。 戦隊モノテイストの、とても賑やかで愉快的ドタバタの一幕でした。 セリフの勢い随一で、今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう！ ときにみなさま、「ダークホース」のような (以下、B2と同文) イチオシフレーズ：「お前は無理だ。海老だから。」×3「ブラックタイガー」「私ピンクが☆」		
B04	アルビノと白血病の少女	3 pt7 位0 sp アルビノの儚さ、白く白くひとつひとつのシーンを輝かせて、きれいなリズムで生から死へとしずかに運んでいただきました。とくに無音のセリフと「白雪姫は目を開けない」の悲しさが際立ちます。全体を流れる静謐なトーンが悲しみによく似合っていますね。		

		ときに、この注は技巧としての注だったでしょうか。それでも本文のきれいな余韻をじゃましてる感がありました。あと説明的なタイトルも改良の余地あり。
B05	好きなもの	9 pt5 位1 sp ぽんぽんぽんと軽やかに展開して、いきなり白衣でどーん、というリズムが絶妙でした。 で、この展開なら、タイトルはふつうに冒頭で良かったのでは。 特別賞：運良すぎなんじゃ死ね一賞（あたりまえではない。）
B06	いろとりどりのセカイに残される二つのあしあと	0 pt11 位3 sp はい、百合モノですね、というのは置いておいて・・・王道のシチュエーションからスタートしつつ、ゆりちゃんの心がしっかり揺さぶられて第一歩につながるまでの後段が、生への希望があふれていて一緒に一步を踏み出したくなる展開でした。 特別賞：続編ほしいで賞 携帯小説で賞（携帯小説だったら・・・と思う）連れ出してあげま賞（4 番目に得点が高かった）
B07	「白」の再分析	0 pt11 位1 sp 留学生さんの折り目正しい、まっすぐな日本語が好印象。具体例を挙げつつ、まとめに入るという様式もきちんと踏まえてますね。 なじみすぎてる日本語を、少し距離を置いて眺めることのできるグッジョブでした。 特別賞：留学生で賞（てにをはの使い方がんばれ！） イチオシフレーズ：「シンボライズ」
B08	白紙の気持ちを考えたことがありますか？	3 pt7 位0 sp 白紙のキモチになってみた——奇想天外な設定がとても魅力的。そこに「うつろな折り目」とか「紙様」とか、さくりさくりとネタが炸裂する。すばらしい。 さあ、みんなで紙飛行機を飛ばそう！ イチオシフレーズ：「うつろな折り目」×2 「紙様」 「白紙の気持ちを考えたことがありますか？」
B09	無題（微睡みを拭った光に）	2 pt10 位0 sp 一日の始まりの清新な気分を日常の風景のなかに置いて、とても親近感の湧く明るい展開でした。 ただ、まどろみとか、ぬぐうとか、いきなり読めないかものなので、ふりがな振るとか、ほどほどにひらがな化するとかして読み手の敷居を下げる工夫をしても良かったかと。
B10	白（或るものは）	10 pt3 位0 sp 色の原理の不思議。格調高くまとめて要点を衝いていたできました。 混ぜると何色？ネタはけっこうあったけれど、ここまで重々しく並記されると、色の奥深さを感じます。おめでとうブロンズ・メダル！
		34 pt1 位4 sp セキガハラ転じてシラガハラ。よくもまあ、こんなことを考えつくもんです。途中まで碁かな？ オセロかな？ とダメされましたよ、ナイス☆ミスリード。

B11	白髪原の戦い	そして、最終兵器に大爆笑。 あんのじょうの大圧勝でしたね。最多特別賞も付きました。おめでとう!!! 特別賞：黒の圧賞（勝）（おちがおもしろかった）ハゲに厳しいで賞（ハゲでは成り立たない）染めま賞（黒軍に勝ってほしい!）おもしろいで賞（擬人化してて意味が分かったとおもしろい。） イチオシフレーズ：「世は戦国時代」「白髪染め」		
		11 pt	2 位	2 sp
B12	無題（予定表）	ラストは、さりげなく。 ゴールデン・ウィークの予定、埋まっていますか？ そんな今と、白紙だった昔、どちらもいとおしい。フォントと余白がいい仕事をしている今週の裏表紙です。 大圧勝作品のあとの、良い息抜きにもなるポジションで、おめでとうシルバー・メダル!! みなさま、良い連休を！ 特別賞：文字が小さかったで賞 成長したで賞（読みやすい）		